



消防学校 ニュース



令和4年6月号

特集

第1回 野外訓練 in 浜石岳

～苦しい 疲れた もうやめたでは 人の命は 救えない～

5月24日(火)、初任科 第93期総員96人のうち体調不良者を除いた91人は、初夏らしい太陽が照りつける空の下、約20kgの資器材(ホースや飲料水等)を背負い、全行程約30kmの野外訓練に臨みました。

この訓練は、野外での集団訓練を通じて消防職員が消防活動を遂行するために必要な脚力、持久力等の体力並びに強靱な精神力と共同精神の成熟させることを目的としている大変厳しい訓練です。



資器材を携行し整列

開始式



高倉学校長訓示



出発前の消防体操



出発



薩埵峠へ



人員報告

訓練 目的

「予定通りに最終目的地（消防学校）に到着すること」
 「班長を中心に、相互協力の意識を持ちながら各行程をクリアし、
 一人の離脱者も出さず、最終目的地の消防学校に到着する」

仲間と任務遂行



浜石岳への行程



浜石岳山頂

全体目標

プロとしての目つき、姿勢づくり 任務遂行は当たり前

班別目標

| | | | |
|----|----------------------|----|-------------------------|
| 1班 | 先見之明 | 4班 | 班員同士で鼓舞し合って全員完歩 |
| 2班 | 一味同心 ～節度・安全管理の徹底～ | 5班 | 班員全員で声を掛け合い、 全員で完歩する |
| 3班 | 皆で鼓舞し合って全員完歩 | 6班 | 消防人としての行動を心掛け 脱落者0 |



学生感想

| | 行程(実績時間) | 距離・所要時間 |
|---|------------------------------------|----------------|
| 1 | 消防学校 → 薩埵峠駐車場 8:00 出発 8:40 | 3.0km 40分 |
| | (第1回休憩 15分) | |
| 2 | 薩埵峠駐車場 → バーベキュー場 8:55 9:58 | 4.9km 63分 |
| | (第2回休憩 15分) | |
| 3 | バーベキュー場 → 浜石岳野外センター 10:13 11:35 | 3.7km 82分 |
| | (第3回休憩 15分) | |
| 4 | 浜石岳野外センター → 浜石岳山頂 11:50 13:28 | 一部山道ルート 38分 |
| | (第4回休憩「昼食」42分) | |
| 5 | 浜石岳山頂 → 浜石岳野外センター 13:10 13:39 | 一部山道ルート 29分 |
| | (第5回休憩 10分) | |
| 6 | 浜石岳野外センター → バーベキュー場 13:49 14:38 | 3.7km 49分 |
| | (第6回休憩 10分) | |
| 7 | バーベキュー場 → 由比駅前公園 14:48 15:14 | 2.3km 26分 |
| | (第7回休憩 15分) | |
| 8 | 由比駅前公園 → 薩埵峠駐車場 15:29 16:17 | 3.2km 48分 |
| | (第8回休憩 12分) | |
| 9 | 薩埵峠駐車場 → 消防学校 16:29 17:10 | 3.0km 41分 |

【総代】 私の理想的な消防士とは、常に研鑽を続け教官が常に言っている辛い時に辛い顔をせずに、市民を守る顔をしている消防士になることです。今回は、休憩時間に一般人に戻ってしまったのが悔しかったです。次回は、隊全体を鼓舞し続け、休憩中も自分の信念を貫く強い心と強靱な身体を作って臨みたい。

【学生A】 いくら精神的に辛くなっても表情には一切出さず、消防人らしく凛々しい顔で常に前を見て進むことが出来た。これは、私一人の力ではなく、班の仲間が支えてくれたからである。班行動での仲間意識の高さが班全体の士気が上がることにつながる事を改めて感じることができた。

【学生B】 完歩は出来たものの個人目標でも掲げた「目的地に傷病者がいる」ことを考えると、歩いている時の精神状態、目的地到着時間の遅れ、目的地到着時の残りの体力は、消防士として全くなっていなかった。これは普段の生活、訓練に対する甘えがあったからだと思う。

【学生C】 日頃から教官方に「消防人として苦しい状況下でも市民に安心を与える姿勢を作りなさい」と言われているが、この訓練では苦しい顔をしていたと思う。あくまでも消防学校に到着してからが災害活動の始まりだが、今の私では災害現場に辿り着くことで精一杯になっていた。



担当教官 から一言



4月に入校した初任科学生にとってこの野外訓練は、これまで初任科教育を履修してきた自分達が、どれほど成長したかを計り知る機会でもありました。

入念な準備と心構えをもって開始式に整列した時、入校当初とは全く違う学生の姿がそこにはありました。この日は夏日となり、気温も上がったうえに急斜面の山道が体力を奪い続け、過酷な訓練となりましたが、全員が前だけを見据え一歩ずつ直向きに進んで行きました。消防人としての意識と覚悟を胸に、任務を完遂すべく、班員と手をつなぎ進む中で、この訓練での目的や成長以上の何かを見付けられたかと思います。

数名のリタイヤ者が発生したことや予定時間を超過したことは悔やまれましたが、一人一人の学生にとって野外訓練を経験しやり切ったことは自信になったはずです。前を向き、相互に協力し助け合ったこの気持ちを忘れずに、さらなる成長を期待します。

教務課主査 山田 友也(静岡市消防局から派遣)

初任科基礎訓練

～ 基礎をしっかり身につける ～



訓練礼式



初任科学生は、起床後の早朝体育、午前は座学、午後は実科訓練を基本として、教育訓練を行なっています。

学生 96 人が 3 クラスに分かれ、4 月から 6 月上旬までの実科訓練では、「訓練礼式」「消防活動訓練」「機器取扱訓練」に取り組んでいます。

学生は、社会人・公務員・消防士としての必要な基礎を身に付けるため、教官の厳しい指導の下、教育訓練に臨んでいます。



消防活動訓練



機器取扱訓練



初任科第93期ホットトレーニング



火災性状を理解せよ

5月31日（火）6月1日（水）の2日間、ホットトレーニングを実施しました。

学生は、座学で火災理論、コントロールボックスを使用した模擬火災実験を学習していますが、火災による受熱、視界不良や狭隘空間等を感じる初めての実践的な体験となりました。

単に「熱かった」、「中性帯が見えた」で終わってしまうことのないように、①建物火災における火災現場に類似した熱環境及び濃煙を体験すること ②火災性状等に関する知識を習得すること の2つの目的を伝え訓練に臨みました。

（担当教官から）

近年、火災件数の減少から、熱環境下での活動や内部進入活動の経験をする機会が少なくなっています。

また、建物構造の変化に伴い高気密高断熱の住宅が増え、消火活動はより高度な知識と技術が必要になり、火災性状の把握は必須の知識でもあります。

学生は今まで想像していた現場をこの訓練を通じて疑似体験ができたことは、貴重な経験になったことと思います。今後の訓練や、所属へ戻ってからの現場活動に活かしてほしいと思います。

教務課主査 望月 竜之介（志太消防本部より派遣）

装置紹介（濃煙熱気実火災訓練装置）



内 部

この装置は、内部で燃焼用部材（木材パレット等）を燃焼させ、熱気と煙を発生させることにより、実際の火災と同等の熱環境、濃煙、中性帯等を体験できる装置として、平成31年3月に設置されました。

現在、火災件数の減少により、火災現場の経験が少なくなっている消防職員に対して、火災の疑似体験ができることから、教育訓練の効果的なツールとなっています。

内部の上層部は400℃、中層部は200℃にもなり、ロールオーバーが確認できます。そのため、防火衣と空気呼吸器等を完全装着し、訓練前はバイタルのチェックを行い、進入から退出するまでの訓練時間は25分以内とする等、安全管理を徹底しています。

危機管理部新任職員等現地視察研修



6月8日（水）に、静岡県危機管理部に転入してきた職員10人が視察研修に訪れました。

教育訓練の概要の説明を受けた後、校内施設と初任科学生の訓練を見学しました。

学生の訓練に取り組む真摯な態度と、教官の厳しい指導の様子を見て、いざという時に頼りになる消防職員は日々の地道な鍛錬のためのものである事を感じたことと思います。そして、危機管理部の職員として、日々の準備の大切さを改めて認識したことと思います。

教官紹介 [埴淵教官]

※活動服が埴淵教官



埴淵教官は、浜松市消防局から教官として派遣され3年目となります。今年度は、初任科教育のチーフとして、また、教官のまとめ役として、熱いハートで教官をリードし、学生を指導しています。～高倉校長と埴淵教官との面談から～

校) この2年間を振り返られていかがですか。

埴) 1年目から改善が必要だと思った事は前例にとらわれず、改善してきました。また、コロナ禍で行動が制約される中、学校の訓練が滞りなく実施できるように、いろいろと工夫をしてきました。

校) 教官として気をつけられていることは、どんなことですか。

埴) 消防の技術を教える事も大切ですが、消防士としての「人間力」を高めたいと思っています。消防は隊で動くので、集団生活が大切です。そのためには、気遣い、心遣いができる人間を育てたいと思います。それがチームワークを生み、互いの信頼に繋がります。また、学生の学ぼうとする姿勢をいかに高めるかを重点に、教育に臨んでいます。

校) プライベートで何か趣味とかお持ちですか。

埴) 格闘技が好きです。月1回、格闘愛好家の集まりに参加し、格闘技の練習をしています。また、市内の柔道協会にも所属し、黒帯三段の腕前を活かして小・中学生へ柔道を教えています。

高倉校長から一言

5月10日(火)から20日(金)まで、新任消防長・学校長科研修の為、消防大学校(東京都調布市)に行く機会をいただきました。そこで、ひとつの組織をあずかる身としての「覚悟」はできたと思います。

埴淵教官は押しも引いても揺るがなさそうな風貌どおり、柔道家・格闘家さんでした。

でも、実はおしゃべり屋さん(自称)で、お聞きしたこと以上に答えが返って来ましたので、やりとりは書き切れていません。懐の深い方だと分かりましたので、学生は元より、教官や所属の皆さんも恐れず(笑)突ついてみるべきです。がつつり組んだら面白い方だと思います。

「埴淵さん」お名前が珍しいです。検索すると全国で40人という信じられない結果が出てきます。

名前と言えば「高倉」もまあまあ珍しいでしょうか。私の場合、祖父の出身、大分県日田市が由縁です。全国一高倉姓の多いところですよ。ちなみに「高倉健」さんは福岡県出身(本名は小田さん)。

学生時代には、好く映画を拝見しましたし、本も読ませてもらいました。エッセイ「あなたに褒められたくて」のあなたは、お母様のことです。辛い極寒の地での映画撮影などは、お母様に褒めてほしいという一念だったそうです。健さんこそ「人間力」の高い気遣いができる人だと思います。一度お会いしたかったのですが、亡くなられる直前に夢の中でお会いすることができました。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎ 054-369-1190 FAX 054-369-1197 E-mail fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp



★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索